



四国の北東部に位置する香川県は、全国で最も面積の小さい県です。県庁所在地の高松市は陸・海・空の交通手段を備え、利便性の良い四国の玄関口となっています。

四国総合研究所はその高松市に社屋を構え、窓からは台形型のシルエットが特徴的な景勝地・屋島が望めます。源平合戦の舞台ともなった屋島の地。山頂は瀬戸内海の多島美と高松市街が一望できる絶景スポットとして知られています。

“讃岐うどん”が全国的にも有名で、うどんの店舗数が全国1位という数字でもわかるように、県民に愛されているソウルフードとなっています。そのことから香川県は、『うどん県』の名で親しまれるようになりました。

現在では、瀬戸内海の島々を舞台に3年に一度開催される現代アートの祭典『瀬戸内国際芸術祭』が、国内外から注目を集めています。

香川県は、江戸時代の奇才、平賀源内の生まれ故郷でもあります。平賀源内は、エレキテルの復元をはじめさまざまな発明を成し遂げた人物であり、浄瑠璃作家、本草学者、西洋画を世に広めるなど、幅広いジャンルで活躍をしました。分野問わず、新しいものを発見し、実現していくという文化が、今も息づいています。

一方、香川県は1世帯当たりの貯蓄が常に上位。堅実な県民性も見えてきます。

豊かな自然と文化に恵まれたこの香川の地で、さまざまな分野に堅実に向き合い、未来を支える技術の開発に挑んでいきます。